



人間性豊かな歯科医師を目指して

学部長 武市 収

日本大学歯学部生並びにご家族の皆様、あけましておめでとうございます。2026年、新たな一年がスタートしました。学生の皆さん、今年はどのような抱負を立てたでしょうか？ 皆さんは歯科医師となるべく、歯学部に入學されました。1年生の皆さんは、歯科医師がどのような治療を行うのか、漠然とした知識はあるでしょう。しかし、学年が上がるにつれ、思っていた以上に沢山の診療行為があり、歯科医療はとてもしゃりがいのある仕事であることに気付くでしょう。歯で悩んでいる患者様の苦痛を取り除き、QOL向上に大きく貢献できることは、歯科医師冥利に尽きると思います。現在の歯科医師国家試験は相対評価が導入されており、以前よりも合格の難易度が上がっています。是非とも、歯科医師を目指すことを決めたときの気持ちを忘れず、国家試験の合格まで一直線に進んでください。

昨年全日本歯科学学生総合体育大会（歯学体：オールデンタル）では、2位に大差をつけて本学が1位となりました。文武両道の精神を胸に、健全な精神を育みつつ、勉学に励むことを望みます。患者様に寄り添う歯科医師となれるよう、我々教職員は一丸となって皆さんの学力向上のためにバックアップいたします。学生生活や学修について悩みや不安があったら、直ぐに我々に相談してください。

（教授 歯科保存学第Ⅱ講座）

研究について



研究担当 浅野 正岳

今年度も、大阪大学の坂口志文特任教授が「制御性T細胞」の発見によりノーベル生理学・医学賞に、また、京都大学の北川進特別教授が、「多孔性金属錯体」の開発の功績によりノーベル化学賞の栄誉に輝いた。共に世界を震撼させる研究成果であるが、それぞれの研究が一朝一夕に得られたものではないことは誰もが知っていることである。

本学においても研究の重要性については建学以来長く指摘されてきたところである。そこで、我々が日本大学歯学部においてこれまで経験してきた研究と、ノーベル賞の栄に浴する研究とは何が違うのか、改めて考えてみたい。実は両者に本質的な違いはないと筆者は考えている。では研究という営みにおいて共通するべき最も重要な点は何か。それは、研究に携わるすべての人間が、正義というマインドを持つことだと考える。すなわち、実験で得られたデータに正直であること、そして決してうそをつかない事だと思う。あらゆる学問領域が急速に進展しつつある今日において、世界的に大きな影響を及ぼす研究の真実を証明することは極めて困難である。研究者には自らの研究成果の正しさを証明するために、無限ともいえる実験データを求められる。その一つ一つのデータに対して、研究者個々人が厳しく自らを律し、不正を働かない事、これが最も大事なことと考える。

近年、大学人の研究業績がインパクトファクターなどによって数値化されることなどから、特に若手研究者は業績の積み重ねに躍起となるきらいが見受けられる。業績が無ければ研究費の獲得もままならないことも大きく影響していると思う。しかし、どれほど小さなことであっても、生涯を通じてたった一つの真実を見つけることの尊さを思っほしい。そしてその発見が、遠い未来の研究者に活用されることほど、研究者冥利に尽きるものは無い。限られた時間の中で、必死の思いで見つけ出された真実ほど、その研究者を納得させられるものは無いのだから。

(教授 病理学講座)

浅野教授は1月1日にご逝去されました(11頁)。本稿は、生前に研究担当としてご執筆いただいた原稿を、そのまま掲載したものです。

修学等支援のための 奨学金について



学生担当 菊入 崇

学生が経済面でも安心して学習に取り組めるように、日本大学及び歯学部の学内奨学金や、学外の奨学金財団による奨学金制度が設けられています。これらには給付型と貸与型があり、それぞれ対象となる条件を確認したうえで、積極的に活用して下さい。

1. 給付型奨学金

- 1) 日本大学特待生：学業成績優秀にして品行方正な学生に対し、毎年度選考の上、特待生として、いずれかの奨学金を給付(甲種：授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円、乙種：授業料1年分相当額の半額)
- 2) 日本大学創立130周年記念奨学金(2種)：経済的理由により学費等の支弁が困難である学部生(年額30万円)
- 3) 歯学部佐藤奨学金(第1種)：学業成績が優秀な学部生(年額20万円あるいは10万円)
- 4) 歯学部佐藤奨学金(第2種)：課外活動等に顕著な功績のある学部生(年額10万円)
- 5) 歯学部佐藤奨学金(第3種)：海外で開催される学会で研究発表をする2～3年の大学院生(年額上限50万円)
- 6) 歯学部同窓会奨学金：学業優秀で課外活動に顕著な成果を収め学部の発展に貢献した学部生(年額10万円)及び学部学生への学習指導貢献が顕著である大学院生(年額5万円)
- 7) 日本大学古田奨学金：学業成績が優秀で人物が優れている大学院生(年額20万円)
- 8) 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金：学業成績が優秀で人物が優れている大学院生(年額20万円)

2. 貸与型奨学金

- 1) 日本大学歯学部佐藤奨学金：人物が優れ、不測の事態により経済的理由等で学業継続が困難な学生(高学年)に対して選考の上、授業料相当額を限度に日本大学歯学部が貸与。
- 2) 日本大学歯学部後援会奨学金：人物が優れており、将来歯科医師として有望であること。経済的理由により学費の納入が困難であり、かつ他の奨学金による支弁が受けられない5年生以上の学生(原則として当該年度の授業料相当額以内)に貸与。

3. 学外奨学金

- 1) 日本学生支援機構奨学金：学部生及び大学院生には「第一種(無利子貸与)」、「第二種(有利子貸与)」があり、多くの学生に貸与されている。将来の返還については、次の世代の奨学金となるため、厳格な仕組みで運用されている。また、授業料等減免・給付型奨学金などもある。詳細は<http://www.jasso.go.jp/>を参照。
- 2) 森田奨学育英会奨学金：学部6年生又は大学院4年生で、学業・人物ともに優秀かつ健康と認められる者に対して、選考の上奨学金が給付。
- 3) NSKナカニシ財団奨学生：学部学生および大学院生で、学業・人物ともに優秀かつ、経済的理由によって修学が困難なものに対して、選考の上で奨学金が給付。

4. その他の制度

提携教育ローン制度等もある。上記を含めて詳細の問い合わせは学生課まで。

【問い合わせ先(学生課)】

03-3219-8004 (de.student@nihon-u.ac.jp)

(教授 小児歯科学講座)

臨床研修歯科医師 選考試験について



卒後教育担当 萩原 芳幸

日本大学歯学部付属歯科病院（以下当歯科病院）の研修プログラムは学内外からも高評価を得ており、毎年200～250人ほどの研修希望者が選考試験を受けます（令和8年度は109名を採用予定）。研修歯科医は総合診療科に所属し、管理型臨床研修施設（当歯科病院）での研修を基本に、様々なカリキュラムに沿って臨床を学びます。当付属歯科病院では卒前教育で習得した歯科診療に関する知識・技能・態度を臨床に結びつけるシームレスな指導を目的に2種類の研修コースを設定しています。

- 1 S・C・O・Pコース [口腔外科・補綴科・保存科・口腔診断科（ペインクリニック）・小児歯科のいずれかを6ヶ月間、協力型臨床研修施設で6ヶ月間の複合研修方式]。100を超える協力型臨床研修施設では臨床経験豊かな指導歯科医のもと、様々な診療に従事することが可能。
- 2 CDコース [総合診療科での通年研修]。総合診療科の指導歯科医のもと、包括的歯科診療の検査・診断・治療計画ならび診療技術を同じ患者さんを通して習得。加えて、島しょ地区（伊豆諸島）での離島診療研修など、学外での様々な研修プログラムに参加可能。

選考試験（①書類審査、②面接、③筆記試験）は本学および他大学の現役生および既卒生を対象に例年7月中に実施します。①書類審査では5年次までの学業成績に加え、在学中の生活態度（出欠席状況、クラブ活動、学内外における各種行事への参加状況や表彰歴）などを評価します。②面接は本学部6年生ならびに既卒生は免除ですが、他大学卒業の受験者については出身校とは異なった環境で研修を行うため、当歯科病院で研修を行うに足る人物であること、積極性や協調性を有することなどを重要視しています。③筆記試験は国家試験に準じた問題を出題します。この選考試験の結果をマッチング協会に提出し、10月下旬にマッチング協会から当歯科病院にマッチした109名のリストが送付されて仮契約を行います。

皆さんが国家試験に合格し、来年度の歯科医師臨床研修を当歯科病院で受けられることをお待ち申し上げます。（教授 歯科補綴学第Ⅱ講座）

解剖体追悼法要

小山 詩織

この度、令和7年度解剖体追悼法要に参列し、人体提供という尊いご決断の重さと、私たちの学びがいかにより多くの方々のご厚意と支えによって成り立っているかを改めて深く実感いたしました。

私たちが学ぶ人体解剖学には、教科書や講義だけでは決して得ることのできない学びが多くあります。自らの目で身体の構造を確かめ、実際に触れながら理解を深める経験は、歯科医療を志す者にとって欠かすことのできない学びであり、将来の診療姿勢を形作る重要な基盤となっています。しかし、その学びが可能であるのは、生前にご自身の身体を教育のために提供するという、決して容易ではない選択をされたご本人と、その思いを受け止め、寄り添い、支えてくださったご家族の深い理解と覚悟があってこそです。

法要の間では、故人を偲び涙を流されているご遺族の姿を目にし、私たちが向き合っている「ご遺体」は人生を歩まれ、家族に愛され、数々の思いのもとで、この選択をされた一人の人であるという、当たり前ながら重い事実を改めて胸に刻みました。その尊い選択に少しでも応えるためには、私たちが真摯な姿勢で学び続け、将来必ず医療の現場でその学びを生かすことこそが何よりの恩返しであると強く感じました。

ご協力いただいた方々に「自分たちの決断は間違っていなかった」と思っていただけのように、今回の実習で得た気づきや学びを忘れず、感謝の念を常に心に留めながら、より良い歯科医療を提供できる歯科医師を目指して日々精進してまいります。人体解剖学実習は決して当たり前のもではなく、多くの方々のご善意と覚悟の上に成り立っているということを今後も心に刻み続けます。

最後に、尊いお身体を提供して下さった方々と、そのご家族の皆さまに、心より深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。（第2学年）



桜歯祭2025を終えて

桜歯祭実行委員長 佐々木 康輔



10月31日・11月1日の2日間にわたり開催された桜歯祭「NUSD SMILE EXPO 2025」は、多くの来場者に支えられ大盛況のうちに幕を閉じました。

今年は“笑顔の歯学部万博”をテーマに、委員や学生一人ひとりが歯学の魅力と仲間との絆を形にし、展示やステージ、模擬店などあらゆる場面で笑顔が溢れました。準備期間中には困難もありましたが、仲間と支え合いながら乗り越えた経験は、私たちの成長と誇りにつながりました。

この2日間で生まれた数えきれない笑顔と感動を胸に、私たちはこれからも“人を想う歯科医療”を目指して歩み続けてまいります。

ご協力くださった先生方、OB・OGの皆さま、地域の方々、そして実行委員会の委員の皆様へ心より感謝申し上げます。(第4学年)

桜歯祭副実行委員長 衛藤 巧

迷いの多い準備期間でしたが、学校内外の仲間の方で、かつてない盛り上がりの桜歯祭を作り上げることができました。沢山の展示や企画がありましたが、あの日の来場者の笑顔こそが「SMILE EXPO」の最大の作品です。この笑顔の灯火を絶やさず、来年へと繋いでいこうと決意できた2日間でした。(第3学年)

パフォーマンス大会企画長 佐久間 丈至

今年の桜歯祭パフォーマンス大会には12の団体が参加し、オリジナリティ溢れるパフォーマンスと観客の熱い声援により会場は大いに盛り上がりを見せた。今年は学生だけでなく院内で働く先生や学生課の方までパフォーマーの一員として参加しており、大学全体で桜歯祭を盛り上げるような大会となった。(第4学年)

SMILE EXHIBITION企画長 馬場 涼子

私はクラブ企画統括として各企画と学生課との架け橋となり、企画の準備や撤収、備品管理を統括させていただきました。今年度の桜歯祭は大きな盛り上がりを見せた反面、大変なことも多かったですが、後輩達に助けられながら無事に閉幕を迎えられました。桜歯祭に携わった皆さん、本当にお疲れ様でした。(第4学年)

Dental Lab.EXPO企画長 伊藤 大智

桜歯祭でのデンタルラボを通して、多くの来場者に歯科の魅力や技術を伝えることができました。準備や運営は大変でしたが、仲間と協力してやり遂げた達成感は大きく、学びと成長を実感できた貴重な経験になりました。(第4学年)

SNS企画長 麻生 悠

今年も昨年に引き続きSNSを活用し、桜歯祭の魅力を発信しました。準備の難しさを感じる場面もありましたが、多くの人に笑顔が届けられたことが何よりの喜びです。来年度はより計画的な運用で魅力を伝えていきたいです。(第3学年)



いちにち歯医者さんを終えて

企画長 三浦 尚哉



「いちにち歯医者さん」は、一般の来場者はもちろん、臨床実習をまだ受けていない本学学生も、実際の歯科治療を体験することができる本学部の専門性を活かした企画となっております。

会場では、切削充填体験、印象採得体験、そして歯科衛生士学校の学生によるプラーク染め出し体験とブラッシング指導という4つの企画を設置しました。2日間で200名を超える参加者があり、大盛況の中終えることができました。

今年度の桜歯祭も、全体を通して非常に充実した祭典となりましたが、それもひとえにご支援いただいた先生方、そして尽力してくれた委員の皆さんのおかげと、心より感謝しております。本当にありがとうございました。来年度もより実りある祭典となるよう、微力とは思いますが、精一杯サポートしていきたいと思っています。(第4学年)

駿技祭を終えて



駿技祭実行委員長 郁 拓真

今回の駿技祭では、昨年と同様に歯科技工関連グッズを製作し販売を行いました。また、今年には新たな企画としてVRゲーム体験コーナーを設置しました。歯科技工関連のグッズとしては、

歯型マグネット、シルバーアクセサリー、ミニチュア義歯などを販売しました。VRゲーム体験コーナーでは、VRゴーグルを使用したゲームを楽しんでいただいた後、限定の景品もご用意しました。

今年はいつもと異なる132講義室を使用したため、慣れない点もありましたが、その分、歯学部の方々と一体感を感じることができました。桜歯祭実行委員長には交流の場を設けていただき、感謝申し上げます。

この行事を通じて学年を超えた親交が深まり、文化祭を共に作り上げる貴重な経験となりました。駿技祭の運営にご協力いただきました教職員の皆さまをはじめ、桜歯祭や翔衛祭の実行委員の皆さま、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

(技工専門学校第2学年)



翔衛祭を終えて



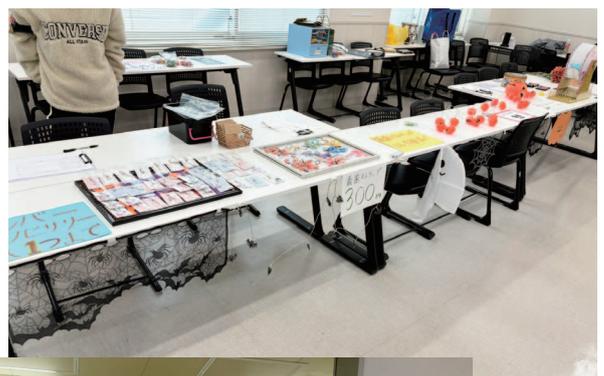
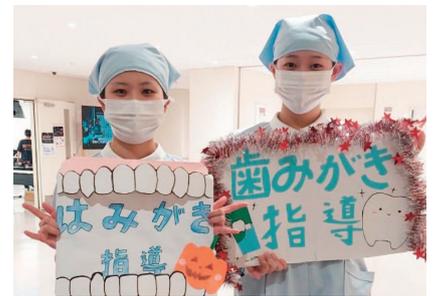
翔衛祭実行委員長 齊藤 琴音

今年の翔衛祭では、TBI（歯磨き指導）とドーナツ販売を企画しました。TBIでは来場者に合わせた歯ブラシ選びや丁寧な説明を心掛け、歯学部の「1日歯医者さん」との連携やスタン

プラリーを通じて、多くの方に参加いただきました。ドーナツ販売では見た目も可愛い5種類の味を用意し、価格も手頃で味も好評をいただきました。結果として、用意した700個を2日間で完売することができました。この行事を通じて、クラスメイトや学年を超えた交流に加

え、歯学部生や様々な方々ともつながることができ、大変貴重な経験となりました。来年は今年の実省点を踏まえ、よりスムーズで充実した運営を目指します。翔衛祭の運営にあたり、ご協力いただいた先生方をはじめ、桜歯祭・駿技祭の実行委員の皆様、そして支えてくださった全ての方に心より御礼申し上げます。

(衛生専門学校第2学年)



令和7年度 日本大学 学生FD CHAmmit

標 題：「学部間で共有する教育課題とグッドプラクティスの活用」

日 時：令和7年9月14日(日) 12:50~18:30

場 所：日本大学会館(市ヶ谷)

須田 駿一

「学部間で共有する教育課題とグッドプラクティスの活用」をテーマとして、令和7年度日本大学学生FD CHAmmitが市ヶ谷の日本大学会館で開催されました。本会では教育改善をテーマとした学生間主体のセッションが企画され、和やかな雰囲気の中で積極的な意見交換が執り行われました。話し合いの中で、他学部の取り組みから自学部の体制を見直すことも多く、大学および歯学部にとってより良い環境を整備していく為の有意義な討論を行うことができた実感した次第です。今回、歯学部は教育改善において最も意義のある提案を行なった学部として、1学部のみにも与えられる「グッドプラクティス賞」を受賞しました。今後の歯学部を支えていく後輩達が、積極的かつ継続的に「グッドプラクティス」を活用していくことに期待したいです。(助教 歯科保存学第I講座)

西 梨里子

皆さんは普段の学生生活において「もしこうだったらもっと楽しめるのにな」と一回でも考えたことはありますか?今回日本大学全16学部が集まり、今後の理想的な未来に繋げるために具体的に話し合いました。学部ならではの意見を交換し、今までになかった考え方を全員が共有したことで全学部が足並みを揃え、つながりが強固となりました。ですがやはりただぼんやりと問題を提起して、解決策を挙げるだけでは残念ながら実現には至りません。有言実行するには一つ一つすべてをクリアにすることからがスタートです。地道な作業の連続ですが、継続することで日本大学が次のステップに進めるように皆で向き合っていきたいです。(第2学年)



「リーダーズキャンプ」 報告

西 隆磨

11月22、23日に開催されたリーダーズキャンプに参加しました。軽井沢を訪れるのは第1学年オリエンテーション以来であり、久しぶりの環境に胸が高鳴りました。長時間の移動後、昼食を終えるとすぐに大学の規則や学生モラルについての議論が始まり、学年や所属を超えた意見交換の場となりました。2年生の参加者が少なく不安もありましたが、先輩方が積極的に話題を振ってくださり、次第に緊張も解け、自分の考えを代表としてしっかり伝えることができました。懇親会では普段関わりのない同級生や先輩だけでなく先生方とも交流でき、多様な価値観に触れたことが大きな刺激となりました。充実した2日間を通して視野が広がり、来年もぜひ参加したいと強く感じました。(第2学年)

横山 晶

日本大学軽井沢研修所にてリーダーズキャンプが開催されました。クラブ協議会副会長として、そして最終学年として参加する最後の機会となりました。今年の全体会議では「学生生活におけるモラル」について、参加者全員が真剣に意見を交わす姿を見ることができ、後輩たちの頼もしさを感じました。また、クラブ協議会の会議では、例年の内容に加え、規約改訂案や部室清掃の改善についても議論し、内容の濃い時間となりました。懇親会では先生方や先輩と交流を深め、新しいつながりを得られたことを嬉しく思います。今回をもって副会長としての任期は終了しますが、今後もリーダーズキャンプを通じて日本大学歯学部がさらに発展していくことを心から願っています。最後に、ご協力いただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。(第5学年)



フィンランドでの 日々と学び

平場 晴斗

2025年2月から7月末まで、フィンランド南西部の都市トゥルクに滞在し、トゥルク大学歯学部にて研究活動に従事しました。同大学は、キシリトールの有効性を示したマキネン教授を輩出するなど、歯科研究で数々の成果を挙げてきた伝統ある学部で、世界各国から研究者が訪れ、自然と国際的な交流が生まれる環境でした。私自身の研究を進めながら、他国の研究者との議論を通じて刺激を受け、新たな視点を得る貴重な機会となりました。

フィンランドでは、法律で定められたコーヒブレイクが生活に根付いています。研究室長の号令で集まり、コーヒーを飲みながら、研究のみならず日々の何気ない会話の中で歯学教育や歯科臨床、日常生活、文化まで様々な話題が自然と交わされ、新しい発想や気づきが生まれる時間となりました。効率だけを追うのではなく、余白を大切にする姿勢は、働き方のあり方を考えるきっかけにもなりました。また、大学の講義や実習にも参加し、フィンランドの歯学教育に触れる貴重な機会となりました。

さらに、研究室長に毎日のように連れて行っていたサウナも生活に欠かせませんでした。熱いサウナ室から冷たい湖やアイスバスに身を投げ、外気にあたりながら休憩する。その繰り返しの中で少しずつ日が長くなり、やがて白夜を迎えるまでの季節の移ろいを肌で感じました。地元の方々との交流を通じ、フィンランドの文化をより深く知ることができました。

今回の派遣を通じて、仕事と生活のバランスを大切にしているフィンランドの暮らし方が、心のゆとりや新しい発想につながることを実感しました。こうした経験を通して、フィンランドが8年連続で世界幸福度ランキング1位に選ばれる理由を、肌で理解できたように思います。この学びを今後に活かしていきたいと考えています。最後に、このような貴重な機会と多大なご支援を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。(専任講師 歯科理工学講座)



歯学部 トマソン頭(あらわ)る

山崎 洋介

まずは写真をご覧ください。本館2階の窓から眺めた風景です。屋外デッキの素敵なテラスの向こうに、旧1号館の北側の壁が見えます。その外階段の中2階の踊り場のすぐ左の壁に、空中に開く大きな扉があるじゃありませんか。あれは何でしょう。そう、それこそがトマソンです。

トマソンとは赤瀬川原平氏が名付けた超芸術のことです。町なかでみられる一見無用の長物というような構造物が、あやしくも不思議な芸術的輝きを放ちます。この扉も、空中に解放するばかりで、



あれを開けてどこに行くというのか。扉の周りには、屋根型の天井を伴った、あずま屋のような縁取りもあり、ただならぬ雰囲気醸し出しています。といっても、教職員の多くは、これの答えを知っています。旧1号館と旧2号館を繋ぐ渡り廊下が接続されていた残骸です。しかし今こうして見てみると、答えを知っている者にとっても、いまや無人となった1号館の見上げる高さに取り残された扉の存在感や、シルエットの放出する不可思議な芸術性に心動かされます。この場所は、一般の方が立ち入れない場所にあり、隠されたトマソンともいふべき、秘宝を目の当たりにしている気さえます。赤瀬川氏の著書では、お茶の水に存在するトマソンがいくつも登場します。世界で3番めに発見されたトマソンもお茶の水のものでした。令和のお茶の水の地にもまたこうしてトマソンが顕れました。1号館は大学院校舎ともよばれ、基礎系研究室や図書館、大講堂などがあり、歯学部の象徴的建物のひとつでした。同窓の皆様的心にも深く刻まれた1号館との思い出があるかと思えます。トマソンこと、この空中の古びた鉄扉は、1号館の記憶を鮮明に呼び起こさせる過去へのゲートに思えてなりません。今後この1号館は取り壊されて存在は無に帰すでしょうが、その記憶は、日本大学歯学部とともに永久に不滅です。

(准教授 解剖学第Ⅱ講座)

随 想

この先の自分は



岡 俊一

日本大学歯学部に入學した当時、自分は右も左も分からぬまま、不安と戸惑いに満ちた日々を手探りで歩み始めたのを覚えている。やがて友人に恵まれ、学生生活にも慣れてくると、ただ前だけを見据え、勢いのまま

突き進む若き自分がそこにいた。大学院は日本大学を離れ、東京医科歯科大学に。大学院時代に日本大学歯学部で歯科麻酔学講座が出来、大学院修了2年後に母校に戻った。その後、留学2年間を除いた計30年以上、日本大学歯学部にお世話になった。母校に戻った頃、将来の自分を思い描き、何を目指すべきかを必死に模索していたように思う。

四十代を過ぎ五十代に入る頃、気がつけば周りには後輩ばかりとなり、自分もいつしか「教える側」の世代に移っていた。しかし五十代の後半に差しかかると、身体の変調がふと表れ、健康や老いといった言葉が急に現実味を帯びて迫ってきた。そして六十代、特に定年という明確な節目が視野に入るにつれ、将来に対する思いはより露骨な形で胸に去来するようになった。「あと何年健康でいられるのか」「あと何度、新年を迎えられるのか」「あとどれほど、大好きな旅行を続けられるのか」——ふとした瞬間にそんな問いが頭をよぎる自分に、私は少なからず驚きを感じた。

とはいえ、未来は誰にとっても未知であり、想像によってしか姿を描けない。だからこそ、六十代とは、残りの時間をただ嘆く年代ではないはずだ。これまで必要とされてきた肩書や立場は、すぐに剥がれ落ち、最後に残るのは顔つきや醸し出す気配——すなわち「佇まい」のみである。ひょっとしたら六十代でもっとも厄介なことは、過去の役割や名刺の肩書に自らを縛りつけ、手放せなくなることかもしれない。人間、変化を嫌うからである。しかし、それらを潔く脱ぎ捨てなければ、晩年は貧しくなる。そう考えると、六十代とは、これまで身につけてきたものを静かに手放し、本来の自分へ還っていく準備の時期であるように思えてならない。

やりたくないことを少しずつ減らし、その空いた時間を「素の自分」に戻るために費やす。自分はこれから何者として生きていくのか—その輪郭を定め、歩みを整える。今、まさにその時期が訪れていると、つくづく感じる今日この頃である。（教授 歯科麻酔学講座）

師弟の睦みうるわしく



萩原 芳幸

1979年4月に日本大学歯学部に入學して以来、46年の月日が経過した。当時の姿を留めている校舎は旧1号館（使用されていないが）だけである。また、御茶ノ水駅周辺の商業施設も丸善、レモン画翠、中華料理・やまだ、

キッチンカロリー、珈琲・穂高くらいが当時の面影を残すのみで、山の上ホテルも2024年に閉館してしまった。まさに隔世の感を禁じ得ない。

退職を前に人生の7割方を過ごした日本大学歯学部での生活を振り返る時、私の歯科医師人生に大きな影響を与え、道標になった素晴らしい師や先輩方との出会いを欠くことはできない。今の世の中、「師匠」や「修行」という言葉は厳しいイメージがあるため、芸人や職人の世界を除き敬遠されがちである。師匠と先生は似て非なるもので、「先生」は学び手に対して分かりやすく、論理的に筋道を立てて教える。しかし、「師匠」の多くは体験的で直感的な育成を行い、ある意味「見て盗め」が信条である。その反面、人間的・精神的なつながりは強く、「死んでも師匠」と言われるが所以である。

平成・令和世代からは前時代的、あるいは「昭和世代のノスタルジー」との誹りは覚悟の上で、私にとって師匠や兄弟子は技術的かつ精神的な後ろ盾であり、特に歯科治療のように技術の継承・習得が重要視される分野では望ましい関係だと思っている。この駿河台の地で良き師匠や兄弟子に巡り合い、歯科補綴学や口腔インプラント学の専門知識・技術・フィロソフィーのみならず、医療人としての生き方など多くのことをご教授いただいた。

退任を前に「その一端を後進に伝えることができたのであろうか」と自問している。歯学部部歌にあるように「師弟の睦みうるわしく〜」、自由闊達に学問や技術習得のできる気風が、これから先も日本大学歯学部のなかに生き続けることを望んでやまない。

（教授 歯科補綴学第Ⅱ講座）

積み重ねがつなぐ「仲間」と「ワクワク」

— 好奇心・探求心・根気の先に広がる研究の魅力 —



山口 洋子

日本大学歯学部にて初めて足を踏み入れたとき、緑豊かなキャンパスで過ごした大学時代との違いに、無機質なビルだけの校舎に寂しさを覚えました。しかし、いつの間にかこの環境にも慣れ、気がつけば34年が経過し

ました。

最初の8年間は、総合歯学研究所の組織培養室に所属し、がん細胞を用いた抗がん剤の研究に没頭。その後の組織改編で生化学講座へ転属となり、学部の学生や多くの先生方と接する機会が増え、戸惑いと不安、そして緊張の連続でした。

そんな中、研究の師（すでに鬼籍に入られました）との出会いをきっかけに、自身のライフワークとなる研究に巡り会うことができました。それは、歯周炎罹患由来の細胞を用いて、宿主側の観点から歯周炎およびアタッチメントロスが起こる機序を探る研究です。ヒト歯肉由来の線維芽細胞と上皮細胞を組み合わせた三次元培養において、コラーゲンを著しく分解する細胞の発見。この細胞をもとに東京大学、産業技術総合研究所、理化学研究所、難治疾患研究所などと共同研究を行い、多角的に検証を重ねた結果、この細胞が紛れもなく歯周炎原因細胞であると確信に至り、これを「歯周炎原因細胞 (PAF)」と名付けました。凍結保存できないと言われていた上皮初代培養には苦労しましたが、凍結保存法を確立し、いつでも三次元培養ができるようになりました（特に線維芽細胞は伸び伸びと突起を伸ばしており、二次元培養では観察できなかった細胞の形態が確認でき、生体に近いと実感できます）。

PAFを用いた三次元培養系の「生体外歯周炎モデル」は、複数の企業との共同研究にも発展しています。

未知の事象の解明には、仮説と検証の積み重ね、そして多角的な視点で複数の目による検証が不可欠です。その過程で得られる「この事実は私しか知らない！」という“ワクワク感”を、皆さんにもぜひ味わっていただきたいと思います。

恩師の口癖「馬鹿になれ」「仲間を大切に」「自分を信じる」に従い、多くの仲間を支えられて今日があります。感謝の気持ちでいっぱいです。

(専任講師 生化学講座)

神は細部に宿る

中野 善夫



昨今の人工知能（生成AI）の進化は目覚ましく、学生諸君も使っているだろうと思うし、私も使っている。最初は、それっぽい返事をするが見てきたような嘘を連発する奴だと思っていた、まあコードを書かせれば便利かも

知れないくらいに思っていた。しかし、その後の進歩は驚くほどで、RAG (Retrieval-Augmented Generation) が実用化されて内部文書を活用できるようになったし、MCP (Model Context Protocol) の登場でさまざまな外部システムと連携できるようになった。

学生諸君も大いに活用するとよいと思うが、忘れてはならないのは、AIを学ばないために使うのではなく学ぶために使うということだろう。

AIが苦手なことの一つに、長い構成を体系的に把握することがある。全体像を捉えるというのは意外に難しい。体系的に全体像を把握するというのは人間にとっても難しいことで、それを学ぶために大学に来るのだといってもよい。断片的なことなら今までもネット検索したら出てくるが、学問は断片の寄せ集めではない。全体を体系的に把握することが重要なのである。

もう一つ、AIは細部にも弱い。資料を集め、整理して、まとめることはAIに頼めるだろうが、最後の仕上げは自分でやらないことには、その内容は自分のものにならないはずだ。手伝わせるならいいが、主体をAIに譲ってしまえば意味がないし勿体ない。神は細部に宿るという言葉がある。細かいところを疎かにするなという意味で使われることが多いと思うが、勉強においても仕事においても細部を疎かにしてはならない。神は魂と言い換えてもいい。あるいは、自己の本質と。何でもAI任せにしていると、いつかAIで置き換えられてしまうような気がする。自分の本質を蔑ろにせずAIで代替できない人間であり続けよう、毎日AIを使って、特にpythonのコードを大量に書かせながら、そんなことを考えている今日この頃である。

(教授 基礎自然科学分野 (化学))

令和7年度 公開講座について

清水 康平

去る12月6日、「口から始める健康づくり～口腔細菌と全身の病気のお話～」と題し、感染症免疫学講座 准教授の神尾宜昌先生を講師に迎え、公開講座が開催されました。

口腔内には700種類を超える細菌が生息しているといわれており、虫歯や歯周病の原因となることは広く知られていますが、近年ではそれにとどまらず、肺炎や糖尿病、さらには認知症など、全身の疾患との関連が注目されています。本講座では、こうした口腔細菌と全身の健康との関係について、最新の知見を交えながら分かりやすく解説されました。

神尾先生は、これまで呼吸器感染症を中心に、口腔細菌が全身に及ぼす影響について研究を重ねてこられました。講演では、ご自身の研究成果を紹介しつつ、「お口の健康を守ることが、全身の病気の予防につながる」という視点から、日常生活における口腔ケアの重要性についても具体的にお話いただきました。

当日は、専門的な内容を含みながらも、一般の方にも理解しやすい平易な説明がなされ、参加者は熱心に耳を傾けていました。講演後の質疑応答では活発な質問が寄せられ、本テーマへの関心の高さがうかがえました。アンケートにおいても満足度は高く、多くの肯定的なご意見が寄せられました。

結びに、本公開講座の開催にあたり、ご講演いただいた神尾宜昌先生に深く感謝申し上げますとともに、本企画にご尽力いただいた関係各位に心より御礼申し上げます。（准教授 歯科保存学第Ⅱ講座）



NU-DIRECT 2025開催

松本 邦史

12月11日、創設100周年記念講堂において、学術シンポジウムNU-DIRECT 2025が開催されました。

NU-DIRECT (Nihon University — Dental Innovation, Research, Education, Clinical practice and Translation) は、学内外の垣根を越えた人的・学術的交流を促進することを目的として新たに企画された学術シンポジウムです。各分野のトップランナーがこれまで培ってきた臨床・研究・教育の成果、経験を学内外に発信するとともに、次世代の歯科医療の方向性を共に考える場として、今回が記念すべき第1回目の開催となりました。

今回は「顎関節症診療の未来予想図」をテーマに、慶應義塾大学の臼田頌先生、みどり小児歯科の和氣創先生、東京科学大学の高原楠旻先生および石山裕之先生をお招きし、筆者を含めた5名のシンポジストによる講演と討論が行われました。

各演者からは、それぞれの専門性を基盤とした顎関節症の診断・治療戦略、臨床現場における課題、最新の知見が提示されました。討論では、幅広い視点から活発な意見交換がなされ、顎関節症診療の現状を再認識するとともに、今後の診療の方向性を考えるうえで重要な示唆が示されました。

会場には本学教員のみならず、研修歯科医、学生、学外の臨床医も多数来場し、参加者は予想を上回る140名となりました。本テーマに対する関心の高さが窺われると同時に、学内外の交流の場としてのNU-DIRECTの意義を示すことができたと考えています。

今後、NU-DIRECTは、毎年異なるテーマでの開催を予定しています。学生の皆さんにとっても様々なテーマについて横断的に学ぶ貴重な機会となりますので、ぜひ積極的に参加していただきたいと思います。（教授 歯科放射線学講座）



消防訓練に参加して

河村 暖和

私は今回の消防訓練に参加して、初めて消火器に触れました。職員の方が丁寧に分かりやすく説明して下さったのですが、いざ自分たちで操作しようとするとうまく理解できず、水を出すまでに少し苦戦してしまいました。普段の生活で火事に遭遇することはなく、消火器の使い方を深く考えたこともなかったため、実際に手を動かす大切さを強く感じました。もしもの時に焦って使えなくなる前に、この訓練を通して正しい使い方を学べたことはとても良い経験でした。使う場面が来ないことが一番ですが、万が一に備えて知識や経験を身につけておくことは必要だと思います。他の学生にも、自分の安全のためにも積極的に参加してほしいと感じました。(第1学年)



父母懇談会開催

令和7年10月11日(土)本館において、個人面談が開催された。

学年主任・クラス担任・学年ごとに配置された学務委員会委員並びに学習指導委員会委員の多数の教員による学年別個人面談が行われた。361名の多数の父母が来校され、子女の成績・進級・学生生活や出欠状況等の話が各ブースで熱心になされた。また、面談終了後には、父母と教員との懇親会が銀座アスター御茶ノ水賓館において和やかに開催されました。



浅野正岳教授 急逝



本学部病理学講座の浅野正岳教授が、令和8年1月1日に御逝去されました。享年62歳。

浅野教授は、平成3年3月31日に日本大学大学院歯学研究科を卒業、同年4月に助手として本学部へ赴任され、平成27年4月1日に教授に昇格されました。研究テーマとしては、IL-1 α を代表的なアラミンとして位置付け、炎症や癌に関わる分子機構を体系化してきました。とくにprocessingの生物学的意義や核移行シグナルの役割、さらに最近ではInterleukin (IL)-1 receptor type 1 およびtype 2の機能とその制御に着目し、未解明領域の解明を志して精力的に研究を重ねてまいりました。

令和5年9月1日から令和7年3月31日まで図書館分館長として、令和7年4月1日からは研究担当として、学内の教育、研究の発展に多大なるご尽力を賜りました。文字通り、学部執行部の一員として、必要不可欠な存在でした。また、今年度は第6学年の学年主任として、学生指導にも熱心に取り組まれてこられました。

突然の逝去を悔やみ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

佐藤会

令和7年11月9日(日)に、本学部創設者の佐藤運雄先生のご遺徳を称えて毎年開催されている佐藤会が行われた。当日は同窓会より役員、本学部より教職員ならびに学生が佐藤先生の菩提寺の青松寺へ墓参し、12時から式典を歯学部本館創設百周年記念講堂で挙行了。同窓会員と関係者が参集し、叙勲者紹介、名誉会員記贈呈、佐藤賞授与が行われた。本年度の佐藤賞は学内から神尾宜昌先生(感染症免疫学講座准教授 学53)「口腔細菌とインフルエンザ感染—歯科医療によるインフルエンザ予防の可能性—」、学外から松崎哲先生(学48)「2040年問題を見据えた歯科的対応を考える～当院における摂食嚥下機能障害患者の実際～」に授与された。

日本歯科麻酔学会学術大会での ダブル受賞

関 秀彰

秋だ。秋といえば学会だ。

というわけで歯科麻酔学講座は、2025年10月10日から12日の3日間、鹿児島県鹿児島市で行われた第53回日本歯科麻酔学会総会・学術集會に参加してきました。

我が講座は昨年までは毎年1～2演題と控えめの発表でしたが、今年は打って変わって7演題もの発表を行い日本大学歯学部存在感を示すことができました。なかでも小柳先生の発表は最優秀演題候補に選ばれており、極めてレベルの高い内容でした。

今回の学会で突出すべきことは、梶原美絵助教が歯科麻酔学会誌の年間最優秀論文に贈られる『中久喜賞』、歯科麻酔専門医試験最優秀賞である『阿波藍賞』と異例のW受賞。まさに圧巻であり、我々の研究・教育体制の卓越性を証明することが出来ました。

また特設ステージで大学院2年生の私関秀彰が、オペラの独唱を披露させていただきました。学会が終わった今でも衣装や楽器の準備、夜遅くまでの練習などを思い出すたび胸の奥が熱くなります。みんなで作り上げた華やかな舞台を下記QRコードからぜひご覧ください

学会初日の夜、街角の小さな店には灯がとまり、皆で鹿児島名物の豚しゃぶを囲みながら互いの健闘を称えました。湯気の向こうで岡教授の笑顔が揺れ、鍋の温もりが心まで染みていくようでした。歯科麻酔学講座はあたたかな愛と静かな絆に満ちています。

本大会は、歯科麻酔学の未来を見据えた実りある交流の場であり、そこで日本大学歯学部が大きな存在感を示すことができたことは誠に意義深く、本講座としても慶賀すべきことであると考えます。

(大学院 2年)



歌QR



附属専門学校から

歯科技工専門学校

本年度も講義は3号館、歯科技工実習は本館にて対面形式で実施しております。

10月に開催された駿技祭では、夏休み期間を活用して学生たちが準備を進めたミニチュア全部床義歯キーホルダーが大好評を博し、早々に完売となりました。製作にあたっては、歯科技工士としての基本技能を応用しながら創意工夫を重ねており、学びの成果を発揮する良い機会となりました。今年は新たにVRシューティングゲームによる体験コーナーを設け、多くの来場者に楽しんでいただきました。また、販売ブースでは義歯ストラップやシルバーアクセサリを出品し、ガラボン抽選では「歯のストラップ」や「歯を持ったクマちゃん」などの景品が人気を集めるなど、学生の発想力と技術力が光る企画となりました。さらに、同窓会長をはじめ、実習に参加していただいている先生方や多くの卒業生の皆さまにもご来場いただき、在学生との交流を深めていただきました。日頃からの温かいご支援に、心より御礼申し上げます。

3年生は、11月に全国歯科技工士教育協議会主催の実技評価試験を終え、卒業および国家試験に向けてよいよラストスパートに入っています。これまで培ってきた努力と経験を糧に、全員が国家試験に合格し、笑顔で春を迎えられることを心から願っております。

歯科衛生専門学校

令和7年11月5日、日本大学歯学部百周年記念講堂において、日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校第66期生(2年生)の戴帽式を執り行いました。

式典は、学生一人ひとりの呼名に続き、戴帽後、キャンドルの灯りの中での厳かな宣誓が行われ、その後、校長式辞、歯学部長告辞、病院長訓辞、そして校歌斉唱という従来形式に則って進行されました。終始厳粛な雰囲気のもと、式は滞りなく終了いたしました。

なお、3年生は研修旅行を終え、国家試験合格に向けて日々研鑽を重ねています。また、1年生は相互実習が始まり、充実した学生生活を送りながら学修に励んでいます。

今後も教職員一同、歯科衛生専門学校生が毎日実りある学生生活を送ることができるよう、引き続き全力で支援し、応援してまいります。



NewsPlus α

☆インフルエンザワクチン接種が実施されました

令和7年11月7日(金) 学部第6学年学生、技工・衛生専門学校第2・3学年生徒の希望者に実施されました。

☆令和7年度1月から3月の図書館開館時間等について

1月8日(木)～1月29日(木) 開館時間延長

【平日】9:00から22:00

【土曜】9:00から18:00

1月30日(金)～2月3日(火) 休館 (OSCE・入学試験の為)

2月4日(水)～2月28日(土) 通常開館

【平日】9:00から21:00

【土曜】9:00から18:00

3月2日(月)～3月31日(火) 短縮開館

【平日】9:00～17:00

【土曜】休館

☆桜歯祭の思い出コーナーを作りました

ラーニングコモンズ書架に飾っています。過去2年の桜歯祭における図書館での催事記録です。展示してほしいものがありましたらご連絡ください。



☆クリスマスイルミネーション点灯式

令和7年12月11日(木) 17:00から本館1階中庭デッキにおいてクリスマスイルミネーション点灯式が開催された。点灯式には赤いジャケットを着た飯沼学部長、クリスマスツリーの衣装をまとった菊入学生担当が登場し、参加した学生、教職員から驚きと喜びの声が溢れた。そして、学生会のメンバーを筆頭に点灯のカウントダウンが始まり、点灯スイッチが押されると同時に植栽のネオンにライトが一齐に点灯し、いつもの景色がクリスマス様に早変わりして、学生達からは歓声と大きな拍手が沸き起こった。



学 事

令和8年度入学者選抜

【一般選抜 (N全学統一方式第1期)〈日本大学が実施する試験〉】

- ◆募集人数 9名
- ◆出願期間 令和8年1月5日(月)～1月22日(木) (郵送必着)
- ◆試験期日 令和8年2月1日(日)
- ◆合格発表 令和8年2月12日(木)
- ◆入学検定料 24,000円

◆選考方法 ①数学①、②「数学I、数学II、数学A(図形の性質、場合の数と確率)、数学B(数列)、数学C(ベクトル)」、「数学I、数学II、数学III、数学A(図形の性質、場合の数と確率)、数学B(数列)、数学C(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)」のうちから1科目選択 ②理科「物理基礎、物理」、「化学基礎、化学」、「生物基礎、生物」のうちから1科目選択※医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。③外国語「英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III」

※数学において、指定科目数以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。

※総合得点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は理科の点数が高い者を優先とする。

【一般選抜 (N全学統一方式第2期)〈日本大学が実施する試験〉】

- ◆募集人数 3名
- ◆出願期間 令和8年1月5日(月)～2月25日(水) (郵送必着)
- ◆試験期日 令和8年3月4日(水)
- ◆合格発表 令和8年3月13日(金)
- ◆入学検定料 24,000円

◆選考方法 ①数学①、②「数学I、数学II、数学A(図形の性質、場合の数と確率)、数学B(数列)、数学C(ベクトル)」、「数学I、数学II、数学III、数学A(図形の性質、場合の数と確率)、数学B(数列)、数学C(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)」のうちから1科目選択 ②理科「物理基礎、物理」、「化学基礎、化学」、「生物基礎、生物」のうちから1科目選択 ※医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。③外国語「英語コミュニケーションI・英語コミュニケーションII、英語コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III」

※数学において、指定科目数以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。

※総合得点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は理科の点数が高い者を優先とする。

【一般選抜 (A個別方式)〈歯学部が実施する試験〉】

- ◆募集人数 60名
- ◆出願期間 令和8年1月5日(月)～1月22日(木) (郵送必着)
- ◆試験期日 令和8年2月3日(火)
- ◆合格発表 令和8年2月9日(月)
- ◆入学検定料 50,000円

◆選考方法 ①数学「数学I 数学II 数学A(図形の性質場合の数と確率) 数学B(数列) 数学C(ベクトル)」 ②理科「物理基礎物理」「化学基礎化学」「生物基礎生物」のうちから1科目選択 ③外国語「英語コミュニケーションI 英語コミュニケーションII 英語コミュニケーションIII 論理・表現I 論理・表現II 論理・表現III」 ④小論文(60分・字数は当日指定) ⑤面接

※小論文および面接にはそれぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は、総合得点が合格最低点を超えていても不合格となる。

※学力検査、小論文、面接の総合得点が同点の場合、小論文と面接の合計点が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は面接の点数が高い者を優先とする。

【一般選抜 (C共通テスト利用方式第1期)〈大学入学共通テストを利用する試験〉】

- ◆募集人数 7名
- ◆出願期間 令和8年1月5日(月)～1月22日(木) (郵送必着)
- ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和8年1月17・18日(土・日)
- ◆合格発表 令和8年2月18日(水)
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。
①国語「近代以降の文章」 ②理科「物理」、「化学」、「生物」のうちから1科目選択 ③外国語「英語」
- ※「理科」において2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。「英語」については、リスニングの成績は利用しない。「国語」については大学入試共通テストの配点を本学部の配点(100点)に換算し、合否判定する。
- ※総合得点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は理科の点数が高い者を優先とする。

【一般選抜 (C共通テスト利用方式第2期)〈大学入学共通テストを利用する試験〉】

- ◆募集人数 2名
- ◆出願期間 令和8年1月5日(月)～2月16日(月) (郵送必着)
- ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和8年1月17・18日(土・日)
- ◆合格発表 令和8年3月4日(水)
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。
①理科「物理」、「化学」、「生物」のうちから1科目選択 ②外国語「英語」
- ※「理科」において2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。「英語」についてはリスニングの成績は利用しない。
- ※総合得点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とする。

歯学部行事予定

- 1月 15日(木) 第4学年 CBT
- 17日(土) 第5学年 CSX
- 29日(木) 第5学年 CSX 追試験
- 31日(土)・2月1日(日) 第119回歯科医師国家試験
- 31日(土) 第4学年 OSCE
- 2月 13日(金) 第4学年 CBT 追・再試験
- 24日(火) 第4学年 OSCE 追・再試験
- 28日(土) 大学院入学試験(第2期)
- 3月 10日(火) 大学院入学試験(第2期) 合格者発表
- 14日(土) 第1～5学年 進級者発表
- 16日(月) 第119回歯科医師国家試験合格発表
- 25日(水) 日本大学歯学部卒業式・学位記伝達式

人 事

= 役職任免 =

(任 命)			
事務局長兼庶務課長事務取扱	参 事	佐々木孝全	11.1
研究担当	教 授	武市 収	1.2
研究委員会委員長	//	//	//
総合歯学研究所次長	//	//	//
(解 任)			
庶務課長	参 事	山崎 和彦	10.31
研究担当	教 授	浅野 正岳	1.1
研究委員会委員長	//	//	//
総合歯学研究所次長	//	//	//

= 異 動 =

(転 出)			
参 事	山崎 和彦	庶務課から本部へ	11.1

=退職(定年) =

主 事	湊 真理子	管理課	11.11
-----	-------	-----	-------

=退職(死亡) =

教 授	浅野 正岳	病理学講座	1.1
-----	-------	-------	-----

お知らせ

寄付金の受け入れ

(10.31現在)

= 研究助成金 =

40万円	株式会社デンタルアロー	歯科保存学第I講座へ	
	(代表取締役社長 小城 賢一 殿)		9.30

編 集 後 記

本学に通学、通勤を含め、気がつけば約30年もの歳月が流れようとしています。これほど長く母校に身を置くことができたのは、ひとえに歴代の先輩方や関係各位の方々から賜った温かいご指導とご厚情のおかげであり、あらためて深い感謝の思いが胸に込み上げてまいります。秋も深まりゆくこの頃になると、講義や実習に追われた日々、仲間と語り合った何気ない時間がふと鮮明によみがえり、月日の流れの早さを実感します。駅前の馴染みの居酒屋や食堂は姿を変え、PHSや携帯電話はスマートフォンへと移り変わりました。AIやクラウド技術が身近となった現在、本学もまた、日本大学病院や歯学部新校舎の建設、デジタル教育の導入など、大きな変革の途上にあります。変わりゆく景色の中で、変わらず受け継がれてきた学びの精神を、次の世代へとつないでいきたいと強く感じております。(K.S)

表紙の写真は、佐藤紀子先生(健康科学分野)にご提供いただきました。

第229号 日本大学歯学部発行
東京都千代田区神田駿河台1-8-13 TEL 03 (3219) 8001

桜 齒 祭

駿 技 祭

翔 衛 祭

